

企業との対話による実理融合 MOT教材開発

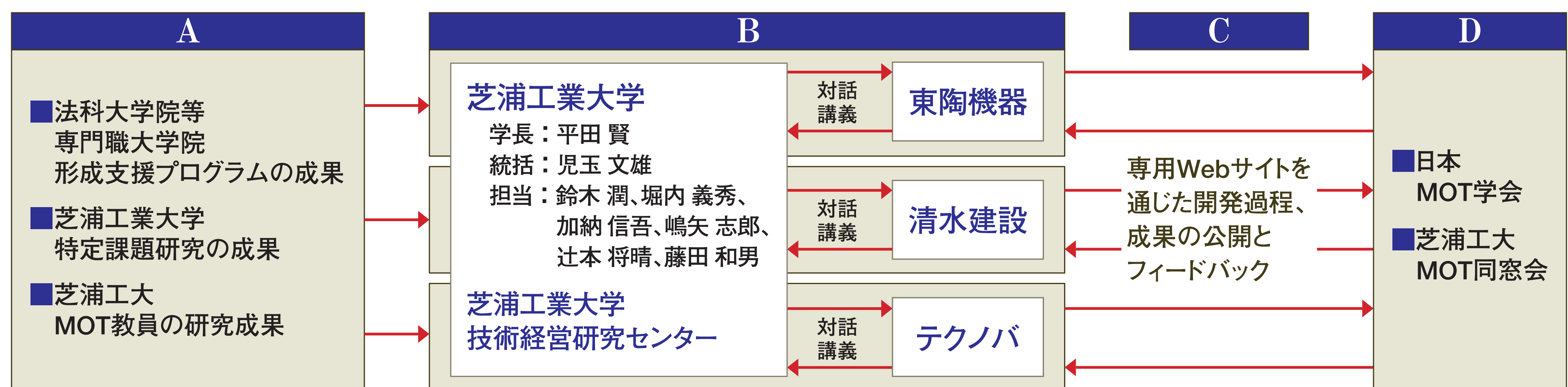
企業と強固な連携をとり、「対話」を通じた教材開発を行います

- 本プロジェクトでは、3企業（東陶機器、清水建設、テクノバ）と強固な連携をとり、「対話」を通じた教材開発を行います。
- RAP (Receiver Active Paradigm)、特許分析、ビジネス・エコシステム分析、都市再生、テクノロジーマーケティングなどMOT分野の鍵となる分析概念、手法を3企業に適用、修正します。
- この過程を通じて一般に敷衍する分析概念、手法を確立し高度な教材開発を行います。

芝浦工業大学専門職大学院工学マネジメント研究科の基本理念「実理融合」

- 芝浦工業大学専門職大学院工学マネジメント研究科は設立時点より「実理融合」を基本理念として掲げています。
- これは、理論を現実企業の実務に適用し融合させていくことがMOT教育の高度化につながるという、本研究科の一貫した方針を示したものです。
- 本プロジェクトにおいても「実理融合」を掲げて企業との強固な連携に基づく「対話」を通じた教材開発を行います。

プロジェクト実施体制 (2006年10月時点)



Contents List (2006年10月時点)

コンテンツタイトル	主担当
RAP (Receiver Active Paradigm) による産学連携 メカニズムの解明	加納 信吾 教授
特許分析による研究開発多角化の分析	鈴木 潤 教授
建設業における技術経営戦略	藤盛 紀明 教授 (清水建設)
マイクロ風力発電システムの開発	藤田 祐志 常務取締役 (テクノバ)
MOTの需要表現へ向けた問題の本質発見のための理想化設計	堀内 義秀 教授
大学発ベンチャーと日本のイノベーションシステム	渡辺 孝 教授 (東工大)
From Traditional Ceramic to Fine Ceramics	吉久保誠一 教授 (TOTO)
インターネットを活用したMOT教育の可能性と課題	辻本 将晴 専任講師

Kickoff Seminar

本プロジェクトでは、10月11日(水)および12日(木)にキックオフセミナーを開催しました。その中で、下記4つの特別講演が行われました。セミナーの内容は報告書等にまとめ、Webサイトに順次公開予定です。

「CTO, MOT, アメリカ経済」 Santa Clara University Distinguished Visiting Fellow 佐野 令而氏

「企業のMOTの課題から」 三菱電機株式会社 取締役会長 野間口 有氏

「MOTは企業に根付いたか?」 日立工機株式会社 名誉相談役 武田 康嗣氏

「MOTのゴールはCEO」 芝浦工業大学 大学院工学マネジメント研究科客員教授 角 忠夫氏

お問い合わせ先

URL: <http://www.shibaura-it.ac.jp/shibaura-ma/>
 芝浦工業大学 専門職大学院 工学マネジメント研究科
 法科大学院等専門職大学院教育推進プログラム開発担当

〒108-0014 東京都港区芝5丁目37番8号住友三田ビル11F
 TEL : 03-5730-6338 FAX : 03-5730-6338

